

SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 4 月 30 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 25 年 4～6 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「4～6月期の見通し」は、『やや上昇』『やや下降』が1業種ずつ、『横ばい』が18業種～

□平成25年3月実施の静岡県内主要産業（20業種）の四半期見通し調査では、現在（1～3月期）の業況は、『普通』が2業種、『低調』が16業種、『不調』が2業種となり、景気は横ばい状態が続いている。

□平成25年4～6月期の見通しについては、20業種中、18業種が『横ばい』で、「住宅」が『やや上昇』、「二輪車部品」が『やや下降』となった。景気回復期待は次第に大きくなっているものの、県内の産業活動の現場では、回復を実感できる材料が乏しく、低迷脱出にはしばらく時間がかかる見通し。

担当：出版担当 望月

円高是正、株価上昇で景気浮揚期待は高まるものの 足元では回復を実感できない県内産業

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成25年1～3月期）の業況は、『好調』『順調』とする業種はなく、『普通』が2業種、『低調』が16業種、『不調』が2業種となった。

前回（平成24年12月）調査との比較では、消費税引き上げ前の駆け込み需要が徐々に出てきた「住宅」が、『低調』から『普通』に1ランク上昇した。一方、生産量が伸びない上、円安で原料価格が上がってきた「食品・飲料」と、中国を中心とする外需、自動車関連向けなどの内需ともに伸び悩んだ「工作機械」の2業種が、『普通』から『低調』に1ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成25年4～6月期の見通しは、20業種中、『やや上昇』が1業種、『横ばい』が18業種、『やや下降』が1業種となった。

業種別にみると、『やや上昇』と見られるのは、駆け込み需要が本格化し、金利や不動産価格の先高感が追い風となる「住宅」で、『普通』からの上昇が期待される。

『横ばい』予想は18業種。省エネ家電の買い替え需要に支えられ、生産量が堅調な「民生用電器部品」が、ただ1業種『普通』で横ばい。茶葉の生育が早まり、作柄も良好と見られるものの、長く需要が落ちている「製茶」、コスト上昇が続く「食品・飲料」、在庫が積み上がっている「家庭紙」、「産業用紙」、今やメインとなった中国市場が伸びない「工作機械」、エコカー補助金終了後の反動減が見込まれる「自動車部品」の製造業6業種で『低調』が続く。また、公共工事、民間建設ともに増加するものの水準自体は低い「建設」、消費者の低価格志向が根強く、客単価が上がらない「大型小売店」、「食品スーパー」、登録車の落ち込みが大きい「自動車販売」、燃料価格が高値圏にある「運輸・倉庫」、製造業向け案件が増えない「情報サービス」、家計の手取り収入が増えない中、苦戦が続く「外食」、「観光・レジャー」、低レート競争から収益面で厳しい「リース」、直接採用に切り替える動きが逆風となる「人材派遣」の10業種を加え、計16業種が『低調』のまま横ばいの見通し。さらに、テレビ販売が低迷する「家電量販店」は『不調』が続く。一方、欧米市場の回復が当面見込めない「二輪車部品」は、『不調』からさらに『やや下降』が予想される。

なお、半期調査業種では、別珍・コールテンの引き合いが弱い「繊維」、市況改善の期待はあるが販売量の水準はまだ低い「製材」が、ともに『低調』のまま横ばいの見通し。



円高の是正、株式相場の上昇、大手企業の業績改善見通しなど、アベノミクス効果が現出しつつあるといわれるが、県内産業への波及は、現状ほとんど感じられない。景気回復期待は次第に大きくなっているものの、復興増税の徴収などで家計所得は伸びておらず、有効求人倍率も全国を下回る状況が続いており、静岡県では、個人消費の回復、産業景気の改善を実感できるようになるまで、もうしばらく時間がかかりそう。